

施設長 宮下正弘

今日から（正しくは昨日の日曜から）8月、葉月です。

新しく1名の仲間を迎えます。後程辞令交付がありますが、看護師の大山さんで、先月から週3回のパートで来てくれておりましたので、既に顔なじみではありますが、今月から正式勤務となります。よろしくお願いします。

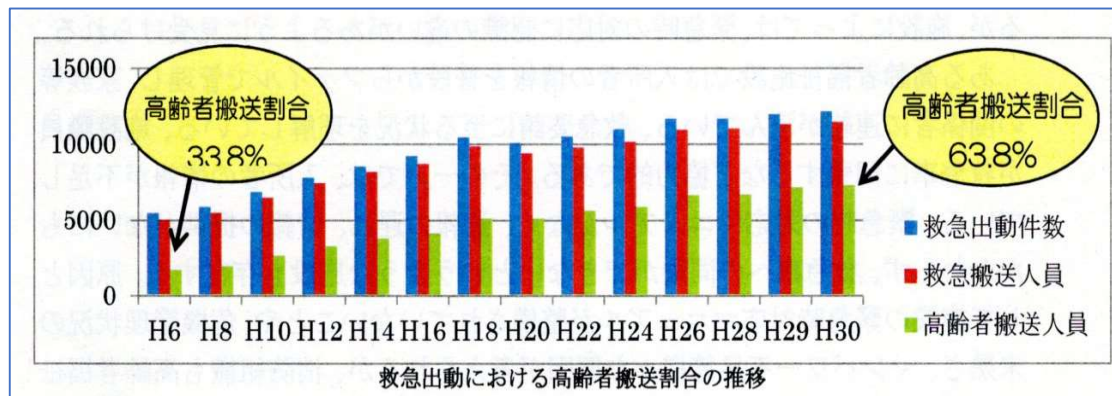
福岡の痛ましい事故

さて、大変衝撃的な、痛ましいニュースが伝わっています。皆さん既にご存じでしょうが、先月29日福岡県中間市の双葉保育園で、5歳の男の子がバスの中に置き去りにされて、夕方5時過ぎに発見されたときは死後4時間ほど経過していたというものです。保育園側にいくつもの過失が重なっていた、夫々がやるべきことをしていなかったとみられていますが、それが日常化していたことに大きな問題があります。単に送迎問題だけでない危機管理全体の問題ですね。ハインリッヒの法則という航空機事故の教訓から導き出された法則があります。

「一つの大きな事故の背景には29の小事故と300の前事故事象（インシデント）がある」、というものです。当苑でも「ヒアリ・ハット報告」を提出してもらっていますが、月平均11.5件、転落転倒が大部分を占めています。これが慣れにならないように、6月の研修会でお話したように、なかなかなくすことは難しいのですが、1歩でも2歩でも入所者さんの安全に繋がるように報告を活用し工夫してほしいと思います。

救急搬送困難例の増加

事故と言えば救急車がつきものですが、秋田市の消防本部から「高齢化社会における救急体制」と題する平成30年のデーターを解析した報告が出ました。救急搬送人員11,421人中高齢者が63.8%を占め、これは平成8年が33.8%であることから倍増と言えます。我々



のような高齢者施設からは9.6%となっています。救急車は最後の砦、頼りとするところです。正しい活用をしてゆく必要があります。消防庁では「医療機関への受け入れ照会数4回以上かつ現場滞在時間30分以上」を「救急搬送困難事案」の統計を毎週発表していますが、最近この数が急増しています。特に東京都ですね。前々週は1,202例で1年前の倍となっています。これを書いている直近の8/2~8/8では1,532例とさらに増加。全国では2,897件ですので、半分以上を東京都が占めており、将にこれは「医療崩壊」以外の何物で

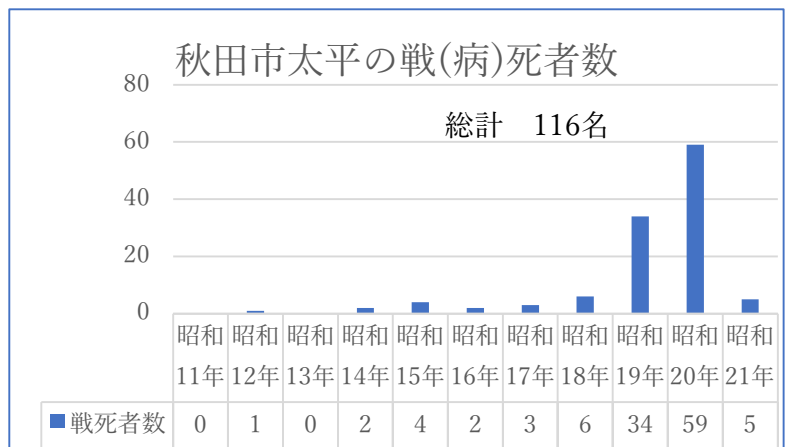
もありません。幸い秋田県は救急搬送困難例はゼロを維持しています。ゼロは他に福井県、三重県、鳥取県、島根県、沖縄県です。

太平の太平洋戦争戦没者

もう一つ、8月と言えば長崎・広島に原爆が投下された月であり、また8月15日は終戦(敗戦)記念日です。例年のごとく、武道館で政府主催の戦没者追悼式が行われますが、今日はこの太平村の戦没者のことをお話ししたいと思います。

昭和6年満州事変から昭和20年8月15に至る15年戦争の間における軍属・民間合わせた全戦没者数は310万人と言われていています。平成9年発行の「秋田市太平郷土史」の巻末には「太平地区戦没者ご芳名」として117名が載っており、別に「日清・日露戦争戦没者ご芳名」として11名が載っています。この戦死者のうち、昭和19年1月以降が98人と84%を占めています。国の統計では、軍人・軍属・民間含めて1944年以降で死者の91%を占めており、特に民間人の死亡80万人は、各地の米軍機による大空襲、広島・長崎の原爆投下名でほとんどこの時期のものであります。

太平の戦死者は多いのでしょうか。秋田県の戦没者は12,432人で県人口の1.2%ですが、太平は当時の人口4,064人に対して117人は2.8%と高くなっています。戦没者という戦場における戦死をイメージしますが、公病死や戦病死が38名、32.4%を占め、戦傷がもとになっての死亡、戦場で罹った病によって命を取られたものも多かったことわかります。



また戦死の中にも「日本の兵士」(中公新書)によれば、兵站の補給が途絶えた“餓死”が半数を占めているといわれています。故郷を離れて、どのような思いで外地で果てていったのか、胸の塞がる思いです。117名の中には1軒で2名の戦死者を出している家が9軒、18~34歳の合わせて18名です。「軍国の家」と称えられたのかもしれませんが、親御さんの思い、特に母親の思いはいかばかりだったのでしょうか。

戦争の開戦自体が無謀なものでありますが、こうしてみますと開戦1年余りの1943年1月ガダルカナル島(「餓島」とも言われる)撤退以後完全な守勢に立たされた後も、2年半以上決断出来ぬまま絶望的な戦争を続けたことが、これらの数字から読み取れるものです。

この月を改めて鎮魂と反戦・平和の誓いの月としたいと思います。

(全体朝礼挨拶に若干加筆したものです)